

2011年3月13日 日本基督教団 春採教会 主日礼拝説教 説教者：田村毅朗

聖書箇所：使徒言行録 第14章8節?20節、説教題：『生ける神に立ち帰るように』、

讃美歌：545、8、213、239、205、540

先週の金曜日、3月11日午後2時46分頃、皆さんは何処で何をしていたでしょうか？私は、午後3時過ぎから開始される予定の湖畔幼稚園での教師会まで、牧師館の書斎でパソコンに向かっておりました。そろそろ職員室に行く時間と思っていたところ地震が発生したのです。今まで一度も経験したことのない長時間の揺れでした。幸い、牧師館にある色々なものが落下することはありませんでした。しかし、今もその時にすぐに行動しなかったことを悔やみ、深く反省しています。私は、教会の伝道者であると同時に幼稚園の園長です。園長には、幼稚園で発生したことのすべてに責任があります。この当たり前のことを、あの地震が発生したとき、私の意識からすっぽりと抜けていたのだと思います。揺れが収まりパソコンに入って来た地震の第一報は、とんでもない規模の地震であるというものでした。慌てて、テレビをつけたところ、続々と情報が入って来たのです。私は地震発生から20分ほど経過してから慌てて、ホールに行きました。ホールには地震に怯えている預かり保育中の園児たち、そして園児たちを必死に守っている先生たちの姿がありました。私は瞬間的に、「しまった！」と思いました。そして、何ですぐに子供たちのところに行かなかったのか？本当に悔やんでも悔やみきれない思いになったのです。その後も余震が続き、子供の中には泣き出してしまいうちもいました。私は、思いました。地震は、突然に襲ってくる。同時に、そのようなとき園長として、すぐに行動出来なかった私は、間違いなく園長失格であると。

昨日も今朝の説教に備える大切な一日であったのですが、まず早朝、やっとな横浜の両親への電話が繋がり、両親の無事を確認致しました。東京在住の妹は、職場から自宅まで約4時間かけて徒歩で帰宅したそうです。両親と妹の無事を確認した私は、今年度最後の「釧路朝拝会」を、春採教会を会場に行いました。毎回、出席しておられるメノナイト鳥取キリスト教会の牧師先生からは、様々な橋が通行止めとなり、欠席せざるを得ないとの連絡を頂きました。けれども、久しぶりに出席された釧路のぞみキリスト教会の牧師先生、そして私達夫婦の3人で、テサロニケの信徒への手紙一第5章の御言葉「気落ちしている者たちを励ましなさい。弱い者たちを助けなさい。絶えず祈りなさい。『霊』の火を消してはいけません」を読み、大地震や大津波によって極めて大きな被害を受け、気落ちしている方々の上に、主の慰めと励ましが届くよう祈らせて頂きました。そして午後は、説教準備に集中しなければならないのですが、どうしても地震のことが気になり、テレビから離れることが出来ませんでした。あまり地震のことばかり語ることは避けるべきかもしれませ

んが、やはり今も不安なのは、私の父の実家である宮城県石巻市の状況です。昨日も朝禱会が終わってから色々なメディアを通して流れてくる地震や津波の被害状況を確認したのですが、石巻の映像はちらっと流れることはあったのですが、ほとんど報道されません。石巻には父の兄、そして二人の弟が生活しています。私の従兄弟もおります。叔父さんに何度も連絡しているのですが、全く連絡が取れません。私も小学生の頃は、夏休みには、必ず石巻に遊びに行き、叔父さんや従兄弟と直ぐ近くにある綺麗な砂浜でスイカ割りをして遊んだ記憶があります。そのような美しい海岸は、私の小さい頃の夏の思い出にはっきりと刻まれています。そのような美しい砂浜を持つ東北地方の様々な町が、一瞬のうちに大津波に飲まれ、家も車も、電柱も、そして何よりもたくさんの尊い生命が海に流されてしまったのです。私は、昨日だけでなく今も説教で何を語るべきか悩んでいます。最初に申し上げたように、私自身、園長としての自覚の無さに落ち込み、さらにどんどんと入って来る東北地方の凄まじい映像に、全く言葉を失うような思いで、今も説教壇に立っているのです。

今朝、私達に与えられた御言葉は、使徒言行録第14章8節から20節までの御言葉です。ゴシックの小見出しには、「リストラで」とあります。パウロとバルナバは、イコニオンでも「主イエスこそ真の救い主メシアである」と大胆に説教をしたのですが、今までと同じように石を投げつけられ、逃げるようにリストラの町へと出発したのです。リストラに到着したパウロとバルナバは、ある男を見つけました。男は足が不自由で、何と生まれてから一度も自分の足で歩いたことがなかったのです。彼は、もう自分の足で歩くことは諦めていたと思います。「もう俺の人生は座っているしかない。俺の足で立つこと、そして歩くことは絶対に不可能だ。もう俺のことなんか放っといてくれ」そのような思いで生活していたはずですが。しかし主は、そのような彼の前に伝道者パウロを遣わしたのです。パウロは、「主イエスは、私達のすべての悲しみ、すべての苦しみを十字架の上で経験して下さった。そしてついに十字架の上で父なる神から見捨てられるという究極の痛みを担って下さったのだ。そして、三日後に私達のすべての悲しみ、すべての痛み、すべての絶望に、復活によって完全に勝利して下さったのだ」と大胆に語ったのです。足の不自由な男は、自分の耳を疑いました。このメッセージはいったい何なのか？これまで色々な人に足を治療してもらったが、結局、何一つ私の足にとってプラスのことは無かった。しかし、このパウロという男のメッセージは、まさにこの私のために語られたメッセージであるようにしか思えない。しかも今、あのパウロという男が俺をじっと見つめている。これまでそのような眼差しで見つめられたことがない。もしかすると、あのパウロという男が語ったことは、本当かもしれない。俺もイエス様をこの私の救い主と信仰を告白したい。いや、この瞬間、俺はイエス様こそ、私の主なりと告白するのだ。パウロには、足の不自由な男の信仰告白の声が届きました。パウロは、彼を見つめ、いやされるのにふさわしい信仰が彼にあるのを認め、「自分の足でまっすぐに立ちなさい」と大声で命じたのです。すると、何

とその男は踊り上がって歩きだしたのです。大勢の群衆は、今、目の前で起こった奇跡を見て、声を張り上げ、リカオニアの方言で、「神々が人間の姿をとって、わたしたちのところにお降（くだ）りになった」と言ったのです。そして群衆は、バルナバを「ゼウス」さらにパウロを「ヘルメス」と呼び、偶像として拝み出したのです。そして偶像に献げる「いけにえ」として牛数頭と花輪を運んで来たのです。慌てたのはパウロとバルナバです。彼らは、自分たちは、決して神ではないと、服を裂いて群衆の中へ飛び込んで行き、思わず、こう叫んだのです。「皆さん、なぜ、こんなことをするのですか。わたしたちも、あなたがたと同じ人間にすぎません。あなたがたが、このような偶像を離れて、生ける神に立ち帰るように、わたしたちは福音を告げ知らせているのです。この神こそ、天と地と海と、そしてその中にあるすべてのものを造られた方です。神は過ぎ去った時代には、すべての国の人思いの道を行くままにしておかれました。しかし、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食物を施して、あなたがたの心を喜びで満たしてくださっているのです」。

皆さんは、このパウロの説教をどのような思いで今、聴かれたでしょうか？私は、冒頭で申し上げたように、地震のニュースで心が保てないような状況の中で今朝の御言葉、特にこのパウロの説教から主の語りかけを聴き続けました。その中に、ドキッとするようなメッセージ「神こそ、天と地と海と、そしてその中にあるすべてのものを造られた方です」があったのです。改めて今、とんでもない地震や津波の被害を前にし、世を支配しておられるのは、やはり神様であって、私達人間はないということを徹底的に教えられました。神様が創造された地球。その地球は今も生きている。その現象の中で地震が発生し、津波も発生するという当たり前のことを、今回の凄まじい津波の力を前に思い知らされました。圧倒的な自然の力を前に、私達人間がいかに無力であるか、本当に言葉もありません。けれども、今朝のパウロのメッセージには、大きな希望もあります。17節以下でパウロは、しかしという言葉を用いて、こう語っているのです。「しかし、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食物を施して、あなたがたの心を喜びで満たしてくださっているのです」。もう一度読みます。「しかし、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食物を施して、あなたがたの心を喜びで満たしてくださっているのです」。神様は、突然の災害で心も身体もボロボロになった方々に、恵みを下さるのです。そして天からの雨を降らせて実りを与え、温かい食物を施し、冷えきった心を喜びで満たして下さるのです。

お亡くなりになった方々が1000人以上、行方不明の方々が700人以上、家を失い、働くための船が流されてしまった方、そして何よりも愛する御家族や友人を失った数えきれないほどの方々にとって、このパウロの説教は、本当に厳しいメッセージであることは

間違いないと思います。私自身も幸い、湖畔幼稚園の愛する園児たち、教職員の皆さん、そして春採教会の皆さんが今回の地震ではほとんど何も被害を受けていないのでこのように説教壇から御言葉を語らせて頂いております。しかし、もしも石巻に住んでいる親戚が、今は何も情報が入っていないのですが、後で情報が入り、何かしらの被害を受けていたなら、「あなたがたの心を喜びで満たしてくださっている」と語ることは難しいと思うのです。これこそ、伝道者としても失格かもしれません。しかし、本当に映像だけでも、あれほどの凄まじい状況を確認すると、とても、そのような悲しみに包まれている方々に「主なる神様は、あなたがたの心を喜びで満たしてくださる」とは言えないと思うのです。しかし、このような時だからこそ、伝道者として召された者の真価が問われると思います。ここで黙ってしまっているのかと。パウロは、偶像崇拜は罪であると何としても伝えるために、大変に激しい行為である服を引き裂いて叫びました。私も、春採教会の説教壇から、服を引き裂くことはしませんが、あのような様々な映像を受け止めつつ、このようなときだからこそ、きちんと御言葉を御言葉として語り、そして一人でも二人でも集まり、震災や地震で被害を受けた方々の慰めを主に祈ることが大切だと思うのです。生まれつき足が悪く、もう歩くことを完全に諦めていた男も、パウロの説教によって信仰が与えられ、ついに自分の足でまっすぐに立つことが出来たのです。そして踊り上がって喜び、何と自分の力で歩きだしたのです。この出来事こそ私達の希望です。地震と津波の被害で家族を失い、家も失い、本当にへたりこんでいるたくさんの方々。もう、自分の足で立つことも、歩くことも、すべての気力を失ってしまった方々。その方々に、春採教会に連なる私達が出来ることを真剣に考えることが大切です。具体的な支援も考えるべきかもしれません。しかし、まずここにいる私達がすぐに出来ること、それは、全能なる神様、唯一の真の神様に祈ることです。決して偶像ではありません。今こそ私達は、天と地と海と、そしてその中にあるすべてのものを造られた方である唯一の神に祈りを献げるのです。主なる神は、今も生きて働いておられます。主なる神は、今回のとてつもない災害を乗り越える力を私達に必ず、与えて下さると信じます。今は、まだ本当に深い悲しみと、これからの生活に対するとうほうもない不安で被災地の方々は震えていると思います。しかし、主は必ず私達すべての人間を良い方向へ導いて下さると信じます。

今朝、私はまだ説教が固まらないとき、ローズンゲン「日々の聖句」を読みました。旧約聖書の御言葉は、このような御言葉でした。「お前たちの周囲に残された国々も、主であるわたしがこの破壊された所を建て直し、荒れ果てていたところに植物を植えたことを知るようになる」。エゼキエル書第36章36節の御言葉でした。何で今朝、このような御言葉が与えられたのか？不思議です。そしてエゼキエル書を開きました。第36章33節以下には、こう書いてあります。「主なる神はこう言われる。わたしがお前たちをすべての罪から清める日に、わたしは町々に人を住ませ、廢墟を建て直す。荒れ果てた地、そこを通るすべての人に荒れ地と見えていた土地が耕されるようになる。そのとき人々は『荒れ

果てていたこの土地がエデンの園のようになった。荒れ果て破壊されて廃虚となった町々が、城壁のある人の住む町になった』と言う。お前たちの周囲に残された国々も、主であるわたしがこの破壊された所を建て直し、荒れ果てていたところに植物を植えたことを知るようになる。主であるわたしが、これを語り、これを行う」。

本当に、まだまだ地震の被害は拡大しそうです。しかし、私は、そのような中で今朝の御言葉を通して、また、今朝のローズンゲンの御言葉を通して、必ず主が、いつの日か破壊された人々の心を喜びで満たし、破壊された町を、建て直して下さると信じ、これからも祈っていきたい。そう心に刻みました。どうか、これからも私達一人一人が信仰に踏みとどまり、御子主イエス・キリストを遣わして下さった全能なる神様を信じ、与えられた生涯を全うしていくことが出来ますよう共に祈りを献げましょう。

(お祈りを致します)

御在天の主イエス・キリストの父なる神様、今朝も私達一人一人の名前を親しく呼んで下さり、春採教会の礼拝へとお招き下さり、心より感謝致します。今、私達はあなたに「何故ですか？」そう祈るしかありません。それ以上の言葉が出てきません。本当に凄まじい自然の力を前に、あなたにすべてを委ねるしかありません。しかし、どうかこのようなときこそ、私達が希望を失うことなく、御言葉を語り、あなたに祈りを献げることが出来ますよう、お導き下さい。今から聖餐の恵みに与ります。聖餐の恵みを頂くとき、今も苦しんでいる被災地の教会の皆さんのことを忘れるわけにはいきません。どうか一日も早く、被災地の教会が復興されますよう、祈ります。そしていつの日か、今、希望を失っている方々があなたによって喜びに満たされる日が与えられますよう、心よりお祈り致します。これらの貧しき願いと感謝とを、私達の救い主、主イエス・キリストの御名によって御前にお献げ致します。アーメン。